

災害対策及び施策について

早田 康成

議員 4年前及び2年前の水害を踏まえ、これまであらゆる対策が考えられてきたと史料する。また、災害発生から毎週月曜日に災害対策会議が開かれてきた。この間に生まれた防災に関する対策、施策について問うとともに、近隣自治体との協議について伺う。

災害は、大町町にとって極めて深刻な問題である。関係機関及び町においてはいろいろな対策・施策を考えられてきたところであるが、町民の安心、安全を確保するためには、あるとあらゆる方面から対策を講じ、施策を考えなければならぬ。よって以下の内容について、これまでの対策、そして今後の施策について問う。

- ①排水に関すること。
- ②ため池の貯水に関すること。
- ③六角川の整備に関すること。

④近隣自治体との協議に関すること。

⑤県、国への要望に関すること。

町長 私からは④点目の「近隣自治体との協議に関すること」について、答弁をさせていただきます。他の項目については、担当課長の方から現状について説明をさせていただきます。

④まず、流域市町の首長をはじめ、国、県、各機関の代表者参加のもと、様々な協議会、懇談会等において、令和元年豪雨、令和3年豪雨と同規模の洪水に係る防災・減災対策について幾度となく協議を重ねています。

いつも申し上げます通り、近年の気候変動による大雨等に対応していくには、やはり、六角川流域市町と、国、県が連携し、一丸となった対策が必要です。

今後も、事業の進捗状況、情報の共有を図っていきたいと考えています。

農林建設課長 ①国の取り組み

みとして、高橋排水機場の既設ポンプが増強され、令和5年度末までには1号ポンプの増強が完了予定で、現在の排水能力が毎秒50トンから61トンまで増強されます。

県の取り組みとしては、広田川排水機場を新設することになっており、昨年10月に着工がありました。現在、令和6年度完成を目標に進められているところです。

内水対策プロジェクトの一環で、昨年6月に県で初めて排水ポンプ車5台が導入され、各土木事務所に1台ずつ配備されています。

町の取り組みとして、下潟排水機場について、令和元年、令和3年と、豪雨により被災したことから復旧工事等を進めてきました。今後、機能強化を目的とした増設ポンプ工事（令和6年出水期整備目標）に着手していきます。増設規模は3トンで来年には10・5ト

ンとなりませ



▲排水機能強化が進められる下潟排水機場

②ため池の貯水については、降雨予測等を基に、水利関係者と調整の上、ため池の貯留水の事前放流や低水管理により空き容量を確保し、下流域への流量の軽減を図っています。

町内には18カ所のため池があり、仮に洪水吐から1m低水管理した場合、約20万トンの貯水量が確保できると見込みです。

③六角川の整備について、国は令和元年の佐賀豪雨を受け、六角川水系の治水整備を河川激甚災害対策特別緊急事業（激特）に採択し、数々の対策が実施されています。

令和3年8月出水対応として、六角川本川において、武雄市橋町の大日堰付近から馬田橋付近まで約13kmの区間で、洪水時の水位低減のため緊急的に河道整備が実施され、まだ工事が続けられている区間が一部ありますが、ほぼ完了しています。

副町長 ⑤様々な対策について国・県・流域市町などで構成されます六角川水系流域治水協議会の方で議論が進んでいるものと認識していますので、その中で必要な対策あるいは要望というものが今後議論されていくものと考えています。